

第4回 第4期鳥取市中心市街地活性化基本計画検討委員会 議事録

日時 令和4年11月28日(月) 10:00~11:30

場所 鳥取市役所本庁舎7階 全員協議会室

出席委員 倉持委員長、細江副委員長、若山委員、真嶋委員、中村委員、田中委員、木谷委員、渡世委員、吉村委員、赤山委員

(石丸委員、三原委員、入江委員、清水委員は欠席)

1. 開 会

2. 倉持委員長あいさつ

- ・ 第4期計画策定のための検討委員会も今日が最後である。半年に満たない期間ではあったが、国に提出する計画について議論はある程度詰めることができた。
- ・ 今までを振り返ると、まちがどうあるべきかなど、もう少し深い議論が必要ではないかという意見が出てきた。今後もそういった議論を続けていけるような場が必要だと思っている。
- ・ 本日は、第4期計画についての議論をきちんと終えることができたらい。

3. 協 議

1) 第3回委員会議事概要

- ・ 第3回委員会の議事録の内容確認

2) 第4期鳥取市中心市街地活性化基本計画(案)について

- ・ 事務局から説明

(委員) p.139の意見書について、要点を簡単に説明できないか。

(中活協) 意見書の要点を紹介する。『まちなか居住の推進』を推進してほしいというのが1つ目。また、「高齢者に寄り添ったまちづくりを引き続きお願いしたい」というのが2つ目。「まちなか駐車場のありべき姿を検討すべきではないか」というのが3つ目。駐車場の確保については、先日の会議で鳥取市からアプリの活用についての説明もあり、前向きに取り組んでいただいていると考えている。4つ目は、「鳥取城跡の大型駐車場の整備」で、鳥取市からは、すぐにはできないが長期的に取り組んでいくとのことであった。最後の5つ目は、「中心市街地には文化施設が点在しているが、各ゾーンを具体的に繋ぐ策が無いので、イベントや施設間の連携など各ゾーンの連携を図ること」である。これらの項目を中心に、意見書を提出させていただこうと思っている。

(委員長) 滞留時間の10%の考え方について、技術的にどのような方法で居住者を除外して計測することができるのか。

(事務局) 15分以上滞在している人をカウントした「計測ログ数」という数値があり、全体で4,192、居住者や勤務者を除いた速報値が2,152である。技術的な方法は確認中であるが、居住者と勤務者を除外した数値を出したいと考えている。

(委員長) まちなかの居住者がイベントに参加した場合は、カウントが難しいのではと思うが、逆に、精細に知ることができれば意味のあるデータである。除外することが難しいのであれば訪問回数に切り替える方法もあるが、個人的には滞留時間を知りたい。

4. その他

1) 計画に関するコメント

- (委員長) 委員の皆さまから一人ずつコメントをいただきたい。
- (委員) 本年度に初めて鳥取城跡周辺でもイベントを開催したが、観光客の駐車場の問題をクリアする必要があると感じた。環境的には整っている場所ではあるが、住民が住んでいる場所に観光のプロモーションを掛けるため、地域とのコミュニケーションがとても大切である。駅南の鉄道公園は、愛情を持ってプロモーションを掛けることによって人々が集まる場所となったため、手を掛けて物事を起こすことがすごく大切であると感じている。賑わいづくりを行うにあたり、地域の方に寄り添った活動が重要である。
- (委員) 高齢者や子育て中の方、障がいがある方が住みよいまちづくりを行うことで、来訪者が集う場所になるという計画ができてよかったと思う。鉄道公園でのイベントでは、高齢者に対してはインターネット以外の方法での PR や口コミも大切であると感じた。観光地の駐車場やバス停も大切である。駐車場情報の一元化も進めるとのことによいと思う。
- (委員) パブリックコメントへの対応方針としては、基本的には修正はないとのことである。その方針が埋もれることのないように、今後も引き続き検討していただきたい。中心市街地への若者の居住を増やすために、空き家の問題やリノベーションの関係などにも連携して取り組んでいきたい。
- (委員) パブリックコメントを拝見して、鳥取駅前への関心が非常に高いと感じた。官の方では鳥取市にしっかりとした計画を作っていただいたため、民の方で駅前に本店を置く店として積極的な投資を促していけるように、この検討委員会で学んだことを持ち帰って業務に還元していきたい。
- (委員) 検討委員会やパブリックコメントにおいて駐車場に関する意見が多く出ている。アプリでの対応はよいが、駐車料金の問題もある。大型店舗には無料駐車場があるが、鳥取駅周辺は有料である。そこで個々の店舗での自助と、公からの助成である公助と、アプリとを上手く組み合わせることができないか。アプリで空き情報を提供し、スマホを持って来店して一定額以上買い物をする、店舗が駐車料金を負担する。その駐車料金に対して公助があれば、アプリの使いやすさや頻度が高まるのでは。アプリで自助・公助が達成できれば、もっとよいものになると思う。
- (委員) まちなか居住の推進について、まずは若者から着手して、中高年、高齢者と次から次へと流れていけるような方針や施策があればよい。また、駐車場については、生活における駐車場はできるだけ用事のある所に近い方がよいが、観光客の駐車場は必ずしも近くにある必要はない。少し遠い所であれば、そこからまちを歩いてもらう中で何らかの消費が発生することもある。
- (委員) 私の本業は商品開発やものづくりで、いつも「選ばれるにはどうしたらよいか」ということを考えている。どのようにして若者に「このまちに住みたい」と選んでもらうのか、どういうポイントがあるのかを考えてきた。無難なメッセージは届きにくい。人の心にひっかかるためには、多少デフォルメや演出をすることが必要。住みやすさや暮らしやすさの「やすさ」というのは、個人の価値基準に判断を委ねており、そういう意味ではまだキーワードが弱いのではないかと感じていた。鳥取市

の強みを絞り込む必要があると思うが、私が一番武器になるのではないかと考えているのは民藝である。その理由は、民藝そのものが日常や暮らしに根差した用の美で、ものやプロダクトだけではなく民藝思想というものがあることと、都会の人から見てかっこよく見える文化だということである。都市部でも鳥取の民藝は大変注目されている。理由のもう一つは、ものづくりの現場が中心市街地から離れているという点である。民藝のゾーンが徐々に広がっていった暮らしのゾーンとリンクして、「民藝のまちに住める」という切り口があると、若者には響くのではないかと個人的な見解ではあるが、民藝思想の暮らしが実現できるまちは他にはなく、とても魅力的なまちになると感じている。首都圏近郊の柏市や越谷市では、都心部より終電が早いため夜のまちが活性化しなかったが、最近そのエリアが割り切って「バーのまち」として売り出している。終電が早いのであればお酒を飲んで泊まってもらおうと深夜まで飲むことのできる飲食店を増やし、弱みを逆手に取ったまちづくりをしている。そのくらいまで切り込まないと、今の人たちには響かないのでは。第4期計画のさらに先の鳥取市の方向性に大きな期待をしている。

(委員) 先々週に研修会で山口市を訪れた際、中心市街地の空洞化、若年層の県外・市外への流出といった同じような問題が議論になった。山口市は新幹線が通り、新山口駅周辺にまちの中心が移行していったため、山口駅前には商店も喫茶店も何もない。30年くらい前に山口市へ行った時は、800メートルのアーケードの商店街がそれなりに賑わっていたが、今では完全にシャッター通りとなっていた。アーケードの中にマンションが数件建っており、新築中のものもある。商店街の青年部の皆さんが、買い物しやすいまちづくりをしようと、各店舗にカメラを取り付け、顔認証で買い物をするとスマホに請求が来るシステムを導入した。5年後や10年後を考えるのであれば、なぜ高校生・大学生や20代の意見をもっと吸い上げていくまちづくりを考えることができないのか。アンケート調査結果によると、高齢者が「昔、駅前はそのづくりの街だった」と回答していたが、60年前の話である。若者の意見を吸い上げ、意見交換をする場があつてしかるべきである。中村委員から民藝についての意見があつたが、民藝は県外からも人を集めることができる。何をすれば人が集まるか、これからも皆さんと考えていきたい。

(委員) 中心市街地の賑わいの低迷は、様々な問題が相互に関係していて簡単に解決できるものではなく、多面的に対処していかなければならない。今後もコロナ禍のような予期できない状況が発生するかもしれないが、そうした状況になっても、今回の計画が効果的に働いて賑わいが戻ることに繋がるとよい。地方都市が抱えている問題に対して、鳥取市が成功例としてアピールできる機会になるとよい。

(委員長) 国が言うようなまちをつくる「お仕着せのまちづくり」ではなく、地元にある民藝について考えたり、商店街で何かやろうとしたり、内側から沸き起こるエネルギーのようなものがあるというのは、とても幸せなことである。これを上手くまとめて力にしていくことは、予算も人材も少ない中で難しいと思うが、様々な場で議論を盛り上げて官と民が力を合わせ、皆さんの意見をいただきながら、何か突破口が開けるのではないかと希望を感じた。計画策定自体は国からお金をもらうためという意味合いが強いと思うが、それだけではなく意見を聞く機会をつくるための一つのステップになるとよい。今後もよろしくお願ひしたい。

(事務局) いただいた意見に関して、何点かご報告したい。

民藝については、民藝観光推進ゾーンの一面に、若者を中心とした作家を集めた場所づくりをしたいという話を聞いている。そういった動きが出てきていることを紹介しておきたい。

若者の意見については、市長がタウンミーティングの形で様々な分野で活動している方と意見交換を行っており、この第4期計画の策定にあたっては若者と意見交換を行っている。知人の子どもさんが県外の大学でまちづくりを専攻しており、鳥取市をゼミの課題として研究している。そういった分野を学んでいる同級生が多いと聞いており、そうした若者が鳥取市に帰ってきてくれるとよい。地元高校生も真剣に鳥取市の将来を考えてくれていると肌で感じている。そうしたことが実を結ぶよう、今後も取り組んでいきたい。

駐車場については、この委員会を象徴する議論であると思っており、引き続き民間と協力しながら進めていきたい。鳥取駅周辺を中心に今後動きが出てくる可能性はゼロではないため、今後も機会を捉えながら民業圧迫にならないよう取り組んでいきたい。

2) 今後のスケジュール

(事務局) 国への計画書案の提出期限が11月30日となっている。今後、2か月間にわたり内閣府からヒアリングを受けて、微修正する作業が残っている。その結果を踏まえて令和5年1月末に国へ認定申請を行い、3月には認定が得られる予定。認定された暁には、委員の皆さまには冊子として配布したい。

5. 閉 会

(事務局) 7月からの非常にタイトなスケジュールで、皆さまも忙しかったと思う。たくさんの貴重な意見全てを計画に盛り込むことはできていないが、計画期間中に各年2回までの変更が認められており、その時々状況をしっかり捉えながら変更を加えて推進していくこととなっている。今後もそれぞれの立場で意見をいただけるとありがたい。引き続きよろしくお願ひしたい。

以上